

復活を告げる空の墓

ヨハネによる福音書二〇章一〜十節

先に墓に着いたもう一人の弟子も中に入って来て、見て、信じた。イエスが死者の中から必ず復活されることを記した聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである。(8、9)

主イエスが復活された日の朝、女性の弟子たちから墓が空であることを聞いたペトロとヨハネは、墓へと急ぎました。聞かされていたとおり、墓の中にイエスの遺体はなく、巻いてあった亜麻布だけが残されていました。この空っぽの墓は、それを見る人によって意味するところは全く異なっていました。女性たちは、何者かがイエスの遺体を盗んだと考えました。死人が歩くことなどないからです。ところがヨハネは、「見て、信じた」と記しました。空の墓は彼にとって主の復活を告げるしりとなったのです。主イエスは甦って今も生きておられるのに、死人の中におられるかのように思っている人はいないでしょうか。主は今も生きておられます。毎週の礼拝は、復活の主イエスにお会いするときです。今日も急ぐ心をもって、礼拝に集おうではありませんか。